

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	宅老所 あいの家		
所在地	下関市豊浦町大字宇賀7378番地19		
電話番号	083-776-5451	事業所番号	3577800398
法人名	特定非営利活動法人 宅老所 あいの家		

訪問調査日	平成 20 年 4 月 17 日	評価確定日	平成 20 年 6 月 28 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	11 人	常勤	6 人 非常勤 5 人 (常勤換算 10 人)

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	1 階建ての	1	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 31,000 円	敷金	無 円
保証金	無 円	償却の有無	有 / 無
食費	日額	1,100 円	
その他の費用	月額	18,000 円	
	内訳 光熱水費 13,000円、その他の日常生活費 5,000円		

(4) 利用者の概要 (4月17日現在)

利用者数	9 名		男性	1 名	女性	8 名
	要介護 1	4	要介護 4			
	要介護 2	4	要介護 5	1		
	要介護 3		要支援 2			
年齢	平均 83.5 歳	最低	75 歳	最高	92 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 じょうのクリニック 歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

国道から少し入った住宅街の中にあり、日本海が一望できる恵まれた環境です。食事は、三食ともホームで調理されており、時には利用者が採った山菜や、畑で採れた野菜、近所の人から届いた野菜などを食材に利用した料理が食卓に並び、利用者は職員と一緒に食事を楽しんでいます。職員同士のチームワークもよく、「いつも誰かがそばにいます」という理念のもと、利用者をひとりぼっちにしていなかったかを常に確認し、日々のケアに取り組まれています。

(特徴的な取組等)

グループホームとして共用型デイサービスをしておられ、2名の利用者(1名が週2回、1名が週3回)があり、家族から感謝されています。グループホーム利用前の馴染みの関係づくりにもなっています。利用者が作った「ちぎり絵」の作品を地域の郵便局に展示し、毎月1回作品の入れ替えに利用者も郵便局に行かれるなど、地域との交流と共に、暮らしていく上での張り合いとなっています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

外部評価の結果については、ミーティングで話し合い、できることから改善に取り組まれています。毎日のミーティング15分~30分の中で、週数回ケアカンファレンスを開催し、介護計画作成に取り組まれるようになりました。

(今回の自己評価の取組状況)

自己評価は管理者と職員3名で実施されました。全職員による取り組みははされていませんが、「評価を日々のケアの見直し」と考え、評価を前向きに捉えておられます。

(運営推進会議の取組状況)

自治会長、市役所支所福祉課職員、老人会会長、家族、利用者、職員のメンバーで、2ヶ月毎に開催し、ホームの状況報告や、サービスの説明、地域との交流等話し合われています。

(家族との連携状況)

毎月請求書と一緒に1ヶ月間の様子(介護の状況、日常生活、介護計画、連絡事項)を記して送付されています。訪問時や電話等でも伝えたり、意見を聞いたり、年6回発行のホーム便りも送付されています。

(地域との連携状況)

自治会に加入し、公民館祭り、花火大会、ハートフルクリスマス会、小学校の運動会などに参加されています。職員は地域の清掃作業に参加されています。日々の散歩の途中、声をかけてもらい、会話したり、採れたての野菜や果物を近所の人が届けてくださったり、交流されています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		・地域密着型サービスとしての理念の見直し
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。		
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月請求書と一緒に、1ヶ月間の様子(介護の状況、日常生活、介護計画、連絡事項)を記して送付している。訪問時や電話等でも連絡し、年6回発行のホーム便りも送付している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の訪問時や電話等で意見を聞いている。ホームの苦情相談窓口は明示しているが、外部機関は電話番号等が記載されていない。第三者委員も選任されていない。玄関に苦情相談箱を設置している。苦情処理の手続きを明確に定めていない。	・第三者委員の選任 ・苦情処理手続きの明確化
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員11名を確保し、8交代(早出、日勤、日勤遅、日勤A、遅出早、遅出、準夜勤、夜勤)の勤務シフトで、利用者の状況の変化や要望に応じられるようにしている。職員の急病や急な休みには、管理者やシフト外の職員で対応できるように柔軟な勤務の調整に努めている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は、必要最小限にし、利用者に影響のないよう配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員全員に年1回以上の研修の機会を、勤務の一環として提供している。研修受講後はミーティングで重要なポイントを伝えている。運営者や主任に相談しやすく働きかけながら、職員が学べる環境にある。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、研修や交流会に参加したり、他のホームの見学をし、サービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
13 (31)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人、家族共に見学や共用型デイサービスを利用し、馴染みの関係をつくり、納得したうえでサービスが利用できるよう支援している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
14 (32)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員全員が利用者を「人生の先輩」として接しており、食事の準備や、食事、後片付け、外出など一日を一緒に過ごす中で、利用者からの知恵、技を学び、お互いに支えあう関係を築いている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
15 (38)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用申込書の生活歴から、これまでの暮らしぶりを把握したり、何気ない会話や、その都度、その場面の中から、「何がしたいのか、何が食べたいのか」など、利用者の思いをさりげなく聞きだし、家族から情報を得たり、本人本意に検討している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎日15分～30分のミーティングを行い、その中で週数回ケアカンファレンスを開き、計画作成者の作成した介護計画を利用者の担当職員が確認し、意見をだしあって介護計画を作成している。家族に送付し、意見をもらっている。	
17 (42)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ミーティングの中で評価をし、6ヶ月ごとに見直しを行なうとともに、少しでも状態に変化があるときには、必要に応じて見直し、現状に即した新たな計画を作成している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	受診、通院の送迎や付き添い、理美容院への送迎など、利用者の要望に応じて柔軟な支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人のかかりつけ医を確認し、希望に応じて受診の支援をしている。殆どどの利用者がホームの協力医療機関をかかりつけ医としており、月2回往診を受けている。連携を密にし、適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族から申し出があれば、ターミナルケアもする事を、契約時に口答で伝えている。実際に重度化した場合は、家族、職員と話し合い、かかりつけ医に相談して介護の方針を決め共有している。	・重度化や終末期に向けた指針の整備
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりの誇りを尊重し、人前での利用者の間違いや失敗を指摘せず、さりげなくフォローするなど、言葉づかいに気をつけて支援している。言葉掛けが気になったときは、管理者が注意している。記録等の取り扱いには特に気をつけている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の流れは、概ね決まっているが、食事時間、起床時間など、日々、その時々で利用者に合わせた支援をし、その人らしい生活ができるよう、一人ひとりのペースを大切にしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は三食共ホームで調理して、ゆったりと時間をとって、同じ食事を一緒に食べながら楽しめるように支援している。利用者はテーブルを拭いたり、食器を下げたり、準備や後片付けなどを職員と一緒にしている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴時間はおおよそ決まっているが、本人の希望にあわせて毎日可能であり、ゆっくり楽しんで入浴できるよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	歌をうたったり、裁縫をしたり、ちぎり絵、畑づくり、テーブル拭き、モップかけなど、一人ひとりの楽しみや出来る事を把握し、活躍できる場面づくりをしている。毎月、郵便局に利用者の作品(ちぎり絵)を展示し、喜ばれている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、ドライブ等、希望や身体状況に応じて戸外に出かけられるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	全職員が正しく理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関の鍵をかけていない。チャイムが鳴り、利用者の外出を察知したら止めるのではなく、職員がさりげなくついていくなどの支援をしている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故・ヒヤリはっと報告書に記録し、対策を検討し事故防止に取り組んでいる。危険場所の確認やイスの高さを一人ひとりに合わせるなど、ミーティングで検討し、事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時対応マニュアルを作成し、運営者(看護師)が初期対応や応急手当について指導している。連絡網もあるが、定期的な訓練はしていない。	・定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	毎月1日を防災の日として話し合いやシュミレーションをして、職員間で確認しあっている。地域の人々の協力を得る働きかけをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報(目的・副作用・用法等)を個人記録簿にファイルし、職員はいつでも確認できるようにしている。服薬はその都度手渡しし、確認している。必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、職員の声かけや見守りで個々に応じた口腔ケアの支援をしている。歯ブラシや義歯などの清掃、消毒、保管について支援している。口腔ケアの研修会に職員2名が参加し、支援に活かしている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量を記録し把握して、一人ひとりに合わせた食事の支援をしている。体重の増減や、血液の検査等でバランスよく食事が摂取されているか、気をつけて支援している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、手洗いやうがいなど予防を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ホームの温度や明るさは適度であり、換気にも配慮している。共用空間は明るく、広く、玄関や洗面台に季節の花を生けたり、利用者の作品を飾っている。畳の間に堀ゴタツがあり、ソファがたくさん配置されており、利用者の居場所づくりの支援をしている。訪問時は、ソファに座って歌をうたったり、談笑したり楽しそうな様子が伺えた。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や、生活用品、写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	宅老所 あいの家
所在地	山口県下関市豊浦町大字宇賀7378番地19
電話番号	083-776-5451
開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日

【サービスの特徴】

--	--	--	--

【実施ユニットの概要】 (3 月 日現在)

ユニットの名称	グループホーム あいの家		
ユニットの定員	9 名		
ユニットの 利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
	要介護 1	4	要介護 4 0
	要介護 2	4	要介護 5 1
	要介護 3	0	要支援 2 0
年齢構成	平均 84.56 歳	最低 75 歳	最高 92 歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	
評価確定日	平成 年 月 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		<p>何時も誰かが側にいる。知っている場所で知っている人がいるという安心感の下で暮らしてもらおう。</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>カンファレンスや何かの時に理念を読み上げてみては。</p>
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		<p>わかりやすい言葉で自然にあるがままにゆったりと過ごしていただけるよう明記している。 職員証の裏に書いてあるのでいつでも確認できる様になっている。</p>
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		<p>小さな事でも相談し合い、利用者さんに対するサービスの質の向上に皆が努めている。何でも相談できる環境にあると思う。</p>
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		<p>天候によるが、毎日の散歩などでであった地域の人々と話す機会を作っている。</p> <p>まだまだグループホームを理解していただいているとは思えないので、いつでも気軽に立ち寄っていただける雰囲気を作りたい。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		<p>畑で作った野菜やら、とれた果物を持ってきてくださる方もおられる。利用者さんに散歩の途中で声を掛けてくださる方もおられる。来所された方に気持ちのよい挨拶をするように職員全体が気を付けている。基本的なことだがそこから始まると思う。</p>
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>2ヶ月に1度の運営推進会議と蜜柑狩り、梨狩り、クリスマス会に参加等徐々にではあるが参加している。 自治会、老人会などには参加していない。利用者さんによっては難しい面もある。散歩など外に出たときには近所の方との交流があり、近所の方も気にしてくれている。</p>
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	記録の仕方がまだ充分で無いと思う。 職員側はあまり理解していない点もあると思う。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	出席者のみの話し合いで終わっている。 推進会議をしているのは知っているが内容は知らない。	どういう話し合いかと言うことが職員全体に行き渡っていない。
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待については職員全体に関心があるが学ぶ機会というの はあまりない。職員同士注意し合い防止に努めている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書、契約書などで充分説明している。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者さんが意見、不満、苦情を言われることはないように思うが、遠慮があるのだったら私たちの対応に問題があるのかもしれない。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月請求書に暮らしぶりの報告書や金銭管理状況を同封している。また、あいの家のニュースも年間回数配布している。担当制にしてあり、毎月家族の方へ報告はしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	要求がある場合応じている。 家族の方からその方の日誌等を見せてほしいと言われれば上司へ相談し管理者から開示の要求に応じている。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	玄関に苦情相談箱を設置している。 苦情受付担当者を決めており何かあれば直ちに報告するようにしている。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	機会をわざわざ設けていないが、何かあればその都度意見や提案をしてもらい話し合いの議題にしている。 週、不定期にカンファレンスをしている。その時に何でも質問や提案が出来る機会がある。皆で話し合いよければ実行してみても再度カンファレンスをする。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者さんの生活に応じた職員配置をしている。緊急時、病気で休んだ時にも職員間で替わりそれに対応している。 勤務の調整は話し合いにしている。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。			
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全員が研修を受ける機会を確保し様々な研修に参加している。順番研修等に参加している。職員も行かされているという感覚ではなく自主的に休日を利用して研修等に参加し意識技術の向上に努めている。		
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	30歳代～70歳代までの年代の多様な経験を積んだ職員を配置している。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	年何回か研修がありその時に交流、施設見学がある。他の施設を見学することで色々な問題点が見えその都度カンファレンス等で話し合っている。		相互訪問し、勉強をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	話し合ったり、電話で連絡を取りながら常に努力している。		
34 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。			
35 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつでも来られるよう声は掛けている。 利用者さんの馴染みの方を知らない。		
36 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	常に職員がそばにいてどのような場面でも対応できるようにしている。 声掛けにて利用者さんが孤立しないよう職員全員が努めている。		
37 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。			
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15) 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今現在何が不満か、何がしたいか、何を食べたいか等機会がある度聴いている。 利用者さんとの何気ない会話からどうしてほしいのか、どうしたいのかをさりげなく聞き出す。何時どんなときでも傾聴の心を忘れないようにしている。		
39 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	歌の好きな方には歌を唄う機会を多くしたり裁縫が好きな方には繕い物をしてもらう等、今までの環境を続けるようにしている。生活歴、サービス利用の経過等は個人のファイルに挟んでおり、いつでも見れるようになっている。		
40 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日担当を決めて記録している。 ケアカンファレンス等で皆が何でも質問でき利用者さんの現状を把握できるようにしている。カンファレンス以外でもいつでも質問できる環境にある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月家族の方に介護計画を送付している。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	小さな変化が生じたときにはそれに対応する介護方法を直ちにミーティングを実行している。(短期間でも)計画見直しまでに成らず改善することも多い。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は記録している。 個別記録はしており職員間で情報を共有している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの方と1年に1回うどん作り。敬老会の参加。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。		
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		これからの課題
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>言葉遣いに気を付けている。幼児言葉は使わない。尊敬の念を持ちながら、普通の言葉かけをするよう心掛けている。記録、個人情報も取り扱いには気を付けている。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>何事も利用者さん本意で決めている。わかりやすく、ゆっくりとした言葉で利用者さんに合わせた内容で話している。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>出来ることはしてもらっている。しかし、限られた人になっている。</p>	<p>もっと外に出る機会を設け、買い物に行き、普通の生活をするよう支援したい。もう少し利用者の方にさせていただけると思う。</p>
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースに合わせるのは職員の数が限られているので難しい。食事時間、起床時間などは利用者さんのペースに合わせている。</p>	<p>思い思いにゆったりと生活していただきたい。少し流れに沿いすぎているような感じもする。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>2か月ごとに決まった近くの散髪屋に職員が連れて行く。いけない人には来てもらう。家族は時間がないのでこちらに任せている。家族利用者さんに確認し行っている。</p>	<p>出かけなくても身だしなみに気を付けるよう声掛をしたい。</p>
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>一人ひとりの好みとまでいっていないが、出来る準備はしてもらおう。テーブルを拭いたり、食器を下げたり出来ることをしてもらおう。片付けに関しては出来る方はいただいている。</p>	<p>準備についてはもう少し手伝いが出来るのでは。</p>
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>こちらが一方向的に用意している。時々問いかけるが返事が少ない。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>毎日排便の有無を確かめ記入している。声掛け等によりしている。失敗しても自尊心を傷つけないように気を付けている。</p>	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	一応曜日や時間を決めている。その中で順番は成るべく希望を聞いている。 毎日でも良いと言うが以前は一応曜日が決まっていたのに合わせていたが、今はほぼ毎日あるので入浴したい方は毎日している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	常にその人に応じた対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	無理の無いようその人に応じた場面作りをしている。 出来ることはしていただいているが、もっと出来ることがあるのではと感じる。		日常生活のことをもっとしていただけては、ご自分のことは出来るだけしていただく。
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	時々、買い物に行ける人は行って自分で支払い買い物をしている。 お金を持っている利用者さんもいるがなかなか買い物には行ってない。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	行く人は限られている。 散歩やドライブ等希望には添えていない部分もある。		暖かくなったら外で過ごす時間を増やしたい。
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節に応じ、春は桜を見にドライブにでたりしている。夏は花火など。家族の方と出かけることは滅多にない。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	掛けたい人には、本人か職員が番号を回す。 利用者さんが家族に電話をしたいと言われたときは時間などを考慮して支援している。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	近くに家族がおられる人はよく来られるが、たいがい月1回来られるところが多い。 家族や友人等来られたときは自室でゆっくり話が出来るようにしている。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	今まではなかったが、これからは付き添いの支援もして行かなくてはならないと思う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	行事は毎月あるが家族の方の参加はあまりない。		年間計画は出来ているが家族の参加はあまりない。家族に無理のない程度にお知らせしてみてもいい。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	取り組んでいる。		
75 (28) 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室の鍵は本人が掛ける。職員は掛けたことはない。玄関の鍵も日中は掛けない。音が鳴るようになっている。		
76 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	何時もどの場所に居られるかを把握するよう努力している。		
77 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。			
78 (29) 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員間の声掛け。		慣れが危険な場合がある。初心を忘れず事故防止に取り組む。
79 (30) 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急に関しては連絡網を定めている。初期対応については定期的ではないが常に話し合っている。		
80 再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	何事も慣れが一番危ない。常に気を引き締めて仕事するようにする。 上司にまず報告し、ひやりはっと、事故報告書を作成提出。 再発防止のため職員間で情報を共有する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		皆に情報が伝わるよう伝達は確実にすること。
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の説明書を個々の日誌に綴っているので見ている。	薬の内容について理解できていない部分がある。もっと職員の意識向上を。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分表を作成し、水分量をチェックしている。お茶、麦茶、紅茶、清涼飲料水、ジュース等で対応している。毎日の散歩、体操等に取り組んでいる。	
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	起床後の口腔ケア、食後の口腔ケア、寝る前の義歯の清掃(出来る人には自分でしてもらう)保管は職員がする。	朝昼の食後の口腔ケアに出来ていないことが多いので、利用者さんに口腔ケアの必要性をわかりやすく説明し毎食後していただく。
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量は個人により多少差がある。水分量は表を作成し、1日1000cc～1200ccを目標にし、足りない人には紅茶やポカリスエット等で対応している。	
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	毎年家族の人に了解を得てインフルエンザの予防接種をしている。ファイルに感染症に対する対応方法をまとめていつでもみれるところにおいてある。	一度目を通したらよいと言うことではなく何度でも目を通す。
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生管理のため常に清潔にすること。食材は賞味期限内の物を使う。手洗いはこまめに行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに花を置き明るい雰囲気を出している。職員は積極的に近所、家族の方と挨拶や会話を交わし親しみやすく出来るようにしている。	殺風景な所があるので、日常的な雰囲気を出していきたい。
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	明るいし、廊下も長くて歩けるし、居心地はよいと思う。洗面所や玄関にその時々のお花や利用者さんの手作りの作品が置いてある。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	思い思いに過ごされていると思う。 こたつに入って少人数で会話をしている時がある。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	写真を飾ったり、家にあった物を自室に置いたりしている。	ゆっくりと部屋で楽しみながら過ごす人は少ない。
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	その日の気候、気温に応じ対応している。 午前中、居室の換気をしながら掃除をしている。においのあるときはその都度換気扇を回している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	長い廊下、居間には手すりがついている。歩行訓練が出来る。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	部屋の入り口には名前が貼っているので、それを確認して入っている。 利用者さんの表情、行動を見て声掛けをして対応している。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇があり、花が咲くと外に出て楽しむことが出来るようになっている。	あまり活用していない。一緒に花を植えたりしたい。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいの	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> 家族の1 / 3 くらいと	<input type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない